

# 事業名 障害者8020生活実践事業

## 北多摩西部保健医療圏

実施年度	開始 平成14年度 終了(予定)平成16年度
背景	都保健所では、平成9年度から障害者福祉施設(知的、身体、精神)の歯科健診を実施してきたが、これまでの継続的な健診と保健指導により、利用者の保健行動や施設側の保健体制に好ましい変容が現れつつある。保健所健診終了後も引き続き、施設主体の健康推進体制を維持、強化していくためには、利用者の日常生活に根ざした健康づくりの実践化、地域歯科医療機関の受入れ体制整備、専門的な口腔ケア指導者育成など、地域ぐるみの支援体制を構築していくことが必要である。
目標	1 障害者の歯の健康づくりによるQOLの向上 2 障害者施設の歯科保健の自主自立化(歯科健診・保健指導の計画的実施、利用者のかかりつけ歯科医定着促進、日常の食生活管理、歯みがきの定着など) 3 圏域各市の歯科医療連携システムの機能強化、発展、普及(利用者側の啓発も含む。) 4 地域の歯科衛生士の人材育成、活動の場の拡大 5 障害者歯科保健・医療・人材に関する情報の収集発信拠点整備(新基幹型保健所の機能強化) 1年目の目標:事業基盤の整備(基礎編の作成) 2年目の目標:実践の展開(基礎編に基づく施設実践の試行、実践編(事例集)の作成) 3年目の目標:基礎編・実践編の広域普及
事業内容	1 障害者8020生活実践プログラム(基礎編:歯みがきサポートシートと解説版)の施設での試行的実践を推奨 2 施設での歯みがき等実践活動の推奨と実践事例の収集(実践編:施設実践事例集の作成) 3 施設指導者向け研修の開催「楽しい歯みがき実践講座・サポートシートの活用法」(3回) 4 歯科衛生士人材発掘・活性化のための「地域歯科衛生士交流会」の開催(2回) (1)「より良い訪問口腔ケアの実践をめざして」歯科衛生士の講話と交流 (2)「在宅でより良い口腔ケアが受けられる環境づくりを目指して」歯科衛生士の講話と交流
評価	1 施設歯科健診時等に歯みがきサポートシートを用いて、個別の評価・目標設定・支援を行ってみた。障害者それぞれ特徴があり、サポートシートの型どおりにあてはまらないなど問題点もあった。また、施設側からは、歯みがきサポートシートを活用すると、職員全員に歯みがきサポートの仕方が周知でき、障害者への対応が一定なることや、次のステップを目指すという目標ができ、歯みがき介助が楽しくなったなど感想が寄せられた。今後も、施設職員からの意見を取り入れ、サポートシートの改良を図っていくことが必要である。 2 施設指導者向け研修は、圏域の障害者福祉施設全体に案内し、会場は、圏域内の3か所の施設を借りて行った。参加者自身の口腔内観察や歯みがきの基本実習及びサポートシートに基づく支援方法の実習は、具体的で理解しやすかったという感想が寄せられ、参加者が抱える日々の疑問や問題点の解決に役立ち、各施設での毎日の歯みがきを、無理なく楽しく行っていくうえでの共通理解が得られたと思われる。施設出張型研修は、施設側にとって参加しやすいので、今後も継続したい。 3 年度の後半、施設を訪問して、サポートシートの活用状況や、歯みがきの実践状況等の事例を収集した。職員考案の歯みがきチェック表や、ディスポーザブル手袋の活用など、施設独自の工夫や積極的な取組事例を収集できた。 4 歯科衛生士交流会では、在宅要介護高齢者に対する訪問口腔ケアができる歯科衛生士が不足している現状から、訪問口腔ケアの実践を交えた研修内容とした。参加者からは、訪問口腔ケア業務に携わりたいなど積極的意見が寄せられた。
問い合わせ先	多摩立川保健所 保健対策課 保健対策係 電話 042-524-5171 ファクシミリ 042-524-7813 E-Mail Harue_Suzuki@member.metro.tokyo.jp

## 15年度の活動 歯みがきサポートシートの普及と活用

### 1 施設での活用

14年度作成した「歯みがきサポートシートと解説版」は、障害者福祉施設の歯科健診・指導の場で実際に使用し、施設職員とともに効果や問題点などを検討している。(写真)



日常の歯みがきの場面でも、歯みがきサポートシートを活用している施設からは、独自の工夫を加えた使用法やさまざまな意見があり、また、施設における歯みがき環境づくりのためのいろいろな取組が寄せられている。これらの実践活動を、広く圏域全体の施設にも周知し、実践の輪を広げるために、実践事例集の作成を開始した。

### 2 施設指導者向け研修

施設職員が参加しやすくなることを考慮し、圏域の3箇所の施設において、出張研修会を開催した。(下記)

## 楽しい歯みがき実践講座 歯みがきサポートシートを使いこなそう!!

研修会は、利用者が帰宅した夕方の時間帯に設定。圏域の他施設の職員も参加した。始めに自分の歯肉の健康観察と歯垢染色で歯みがきテクニックを確認。職員自身が歯みがきのポイントをつかみ、上手になることが、障害者へのより良いサポートを行うためには、重要である。



「軽くみがく方がきれいになるんですね。」  
「今までゴシゴシみがいていた。利用者さん、痛かったかしら」  
「歯ブラシをたてに使うときれいになるな」  
「これは、自分にも役立つわ」など、楽しく、真剣に体験学習しました。



続いて、「サポートシート解説版」に沿った実技指導を実施した。施設職員が障害者役になり、講師が歯みがき支援を行う。参加者は、その様子を観察し、歯みがきテクニックや理解度、それに応じた接し方などについて、サポートシートに照らし合わせ、どの段階にあてはまるかを話し合った。客観的な評価基準を持ち、問題を共有化するために有効な研修であった。参加者からは、研修継続の要望も寄せられた。

### 3 若年層に歯周病の改善

当圏域の心身障害者施設における歯科健診結果を昨年と比較した結果、10代から30代までの若年層では、健康な歯肉の人の割合が増加傾向にある。これは、各施設における日常の歯みがき支援が定着しつつある成果と考えられる。

